へ 13
3783
3

門へ13
號2787
卷3

英雄たちの縁と

猫乃国

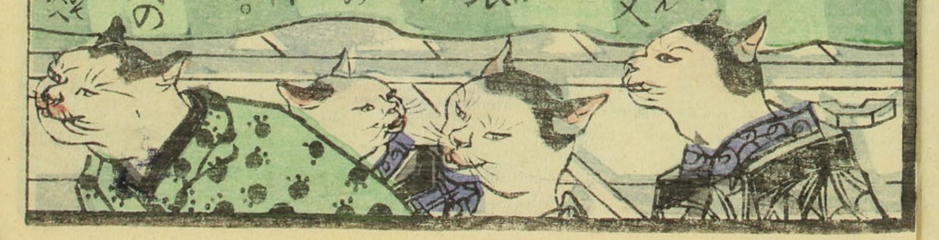
かしら

魯文作

よう斎画

松井文作

猫の世界も戯場ゐ比喩バ高麗の貢物序幕が止で女三の宮の翠簾家臺ゐ色情文々の紫貴婦ダチヨホあり。さて也ハ和藤内ガ虎班文の畜猫衆家虎ゐ化て研て荒事の宗を行き。薄雲の蒙貴八文字の跡を踏ぐ。若女形の名代を持ちと。晋子ガ吟乃通ゐ京町揚屋町ゑ場を持きり。西行法師の銀猫。星月夜の木頭り用ゆ。時代と世話の大切ゐ。水木ガ振の猫乃所作。大ざろくで引抜て。彼金花猫の七変化。時斗の目前を替ふ。河竹如皐の立作者ガ。筆頭ゐ等類號通自在鼠木戸ゑ入こゆ。紙不許ざる土間桟敷ハ。猫の月額の割込狭く。猫ゐ小判の金主ハ。鮑乃貝のとひざり。其大入ゐ似競ゆ。

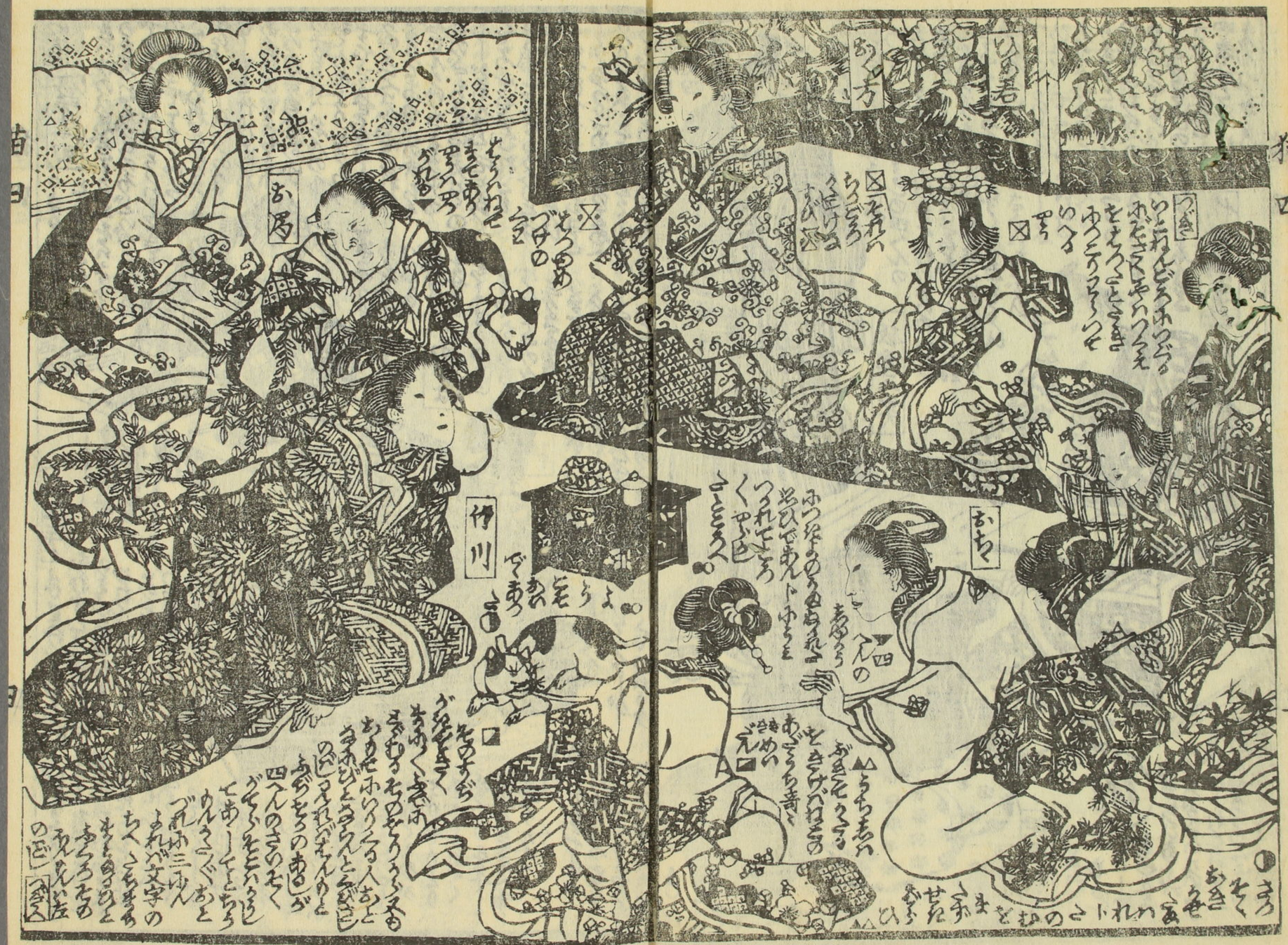


上藤慶
上総百荷
対丈
上総
対江

伊東
蒲玉
飼猫や
恭柔花と
化粧ゑ

合巻の梓主が需ふ応じて筆を採。鐍花の大名題。
當る四編の新幕を。明る作者の兄あるひが。チョンく
ちろこを出せり
慶応乙丑孟秋発兒
假名垣
魯文記

よこまくらでめ
板元三笑
伊東煮玉
作者魯文


ひろ君
あり方
つぎ
おちく
四人の
お房
伊川

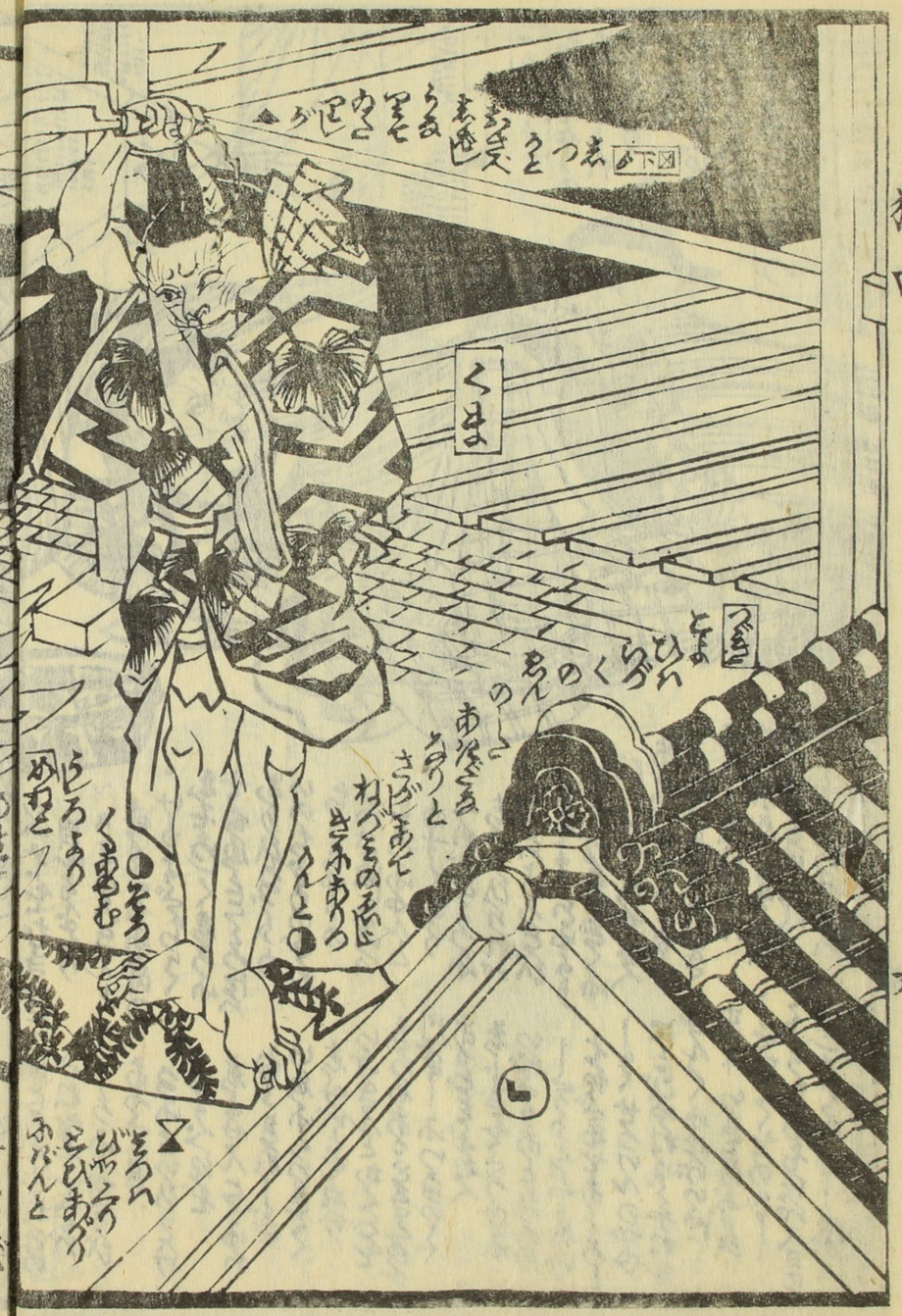
第二回

其二

竹川

第二回
ちくま

二
くま
一の巻
ちくま


くまの
つぎ

とつ

其二
百ねんめ

第三回

四ツのうち

ボヨンくく

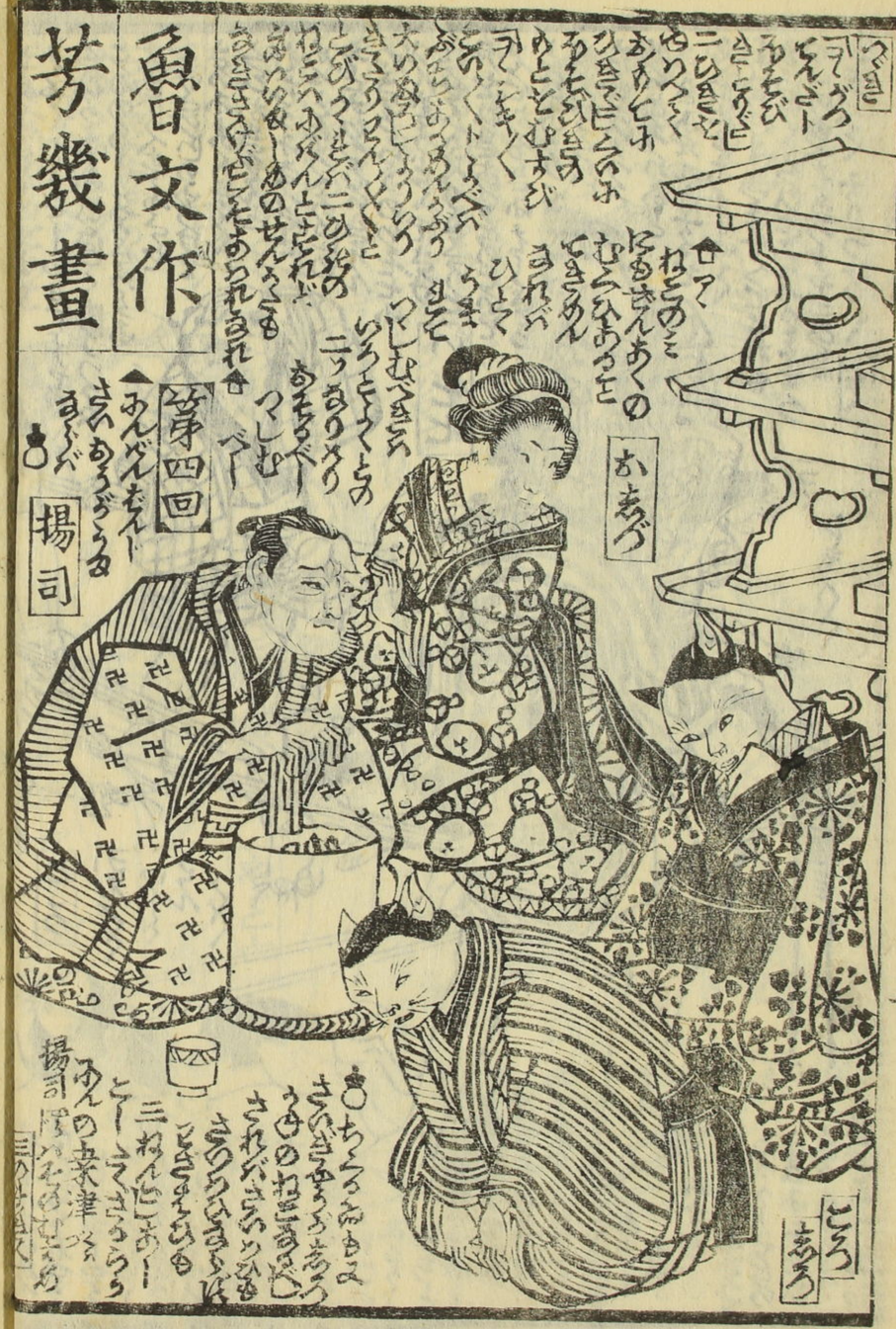
いと七

ろ

小初
おちづ
其二
やど六
おろく
いそ七
とろ

松林堂

聖徳太子御一代記	全一冊
親鸞聖人御一代記	全一冊
同廿四輩圖會	全一冊
傳教大師御一代記	全一冊
一休和尚御一代記	全一冊
圓光大師御一代記	全一冊
日蓮上人御一代記	全一冊
西行法師一代噺	全一冊
弘法大師御一代記	全一冊



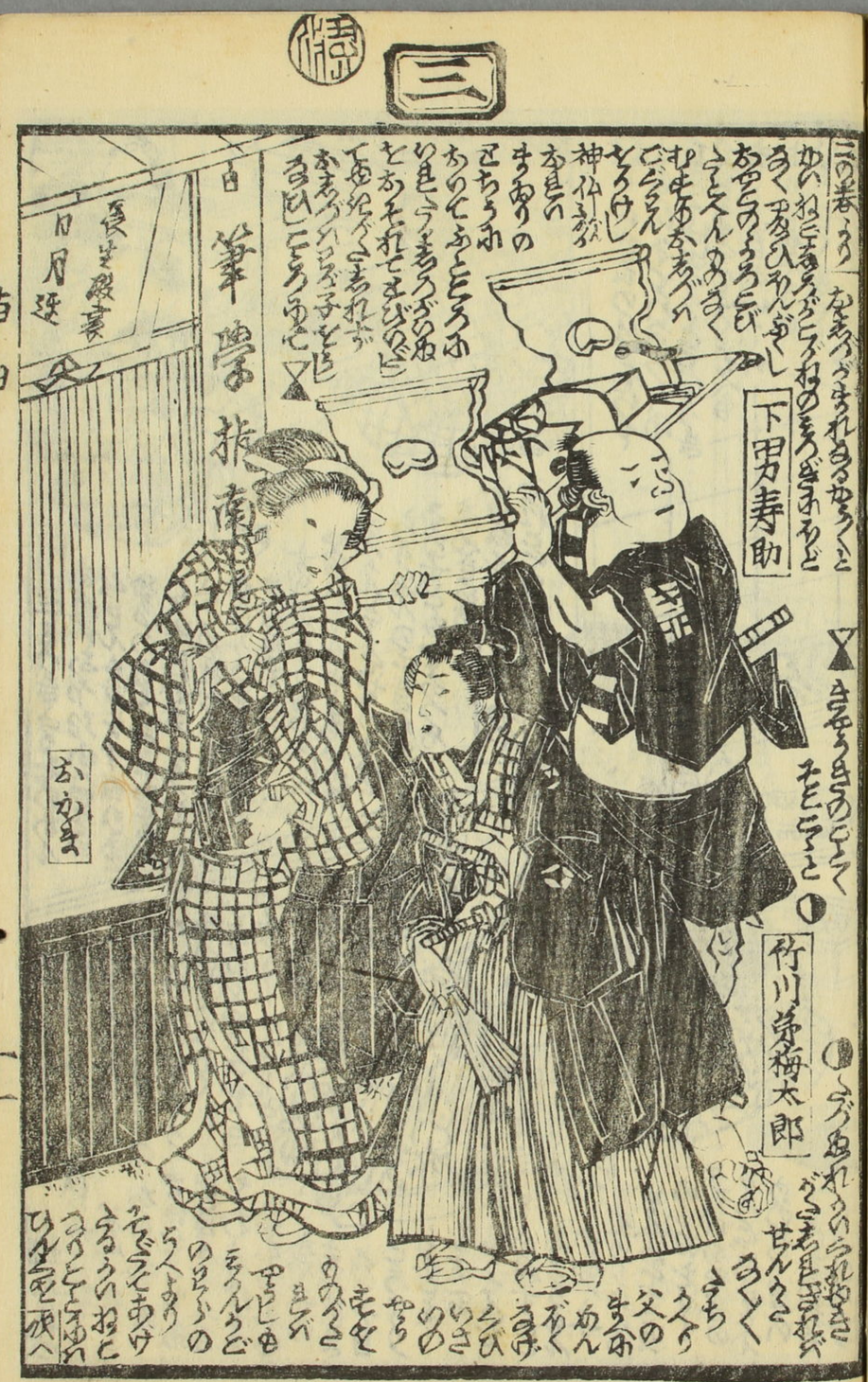
黄金花猫目假面（こがねのはなねこのめかづら）

假名垣魚文著

一惠齋芳幾畫

四編下

ろをつる
ちつの芽いく志のく
梅ゝ
むし
四へむの
下
月このづく
松林堂
美樹


三
下男寿助
竹川茅梅太郎
筆學抜南
長生殿裏
月逸
おかま

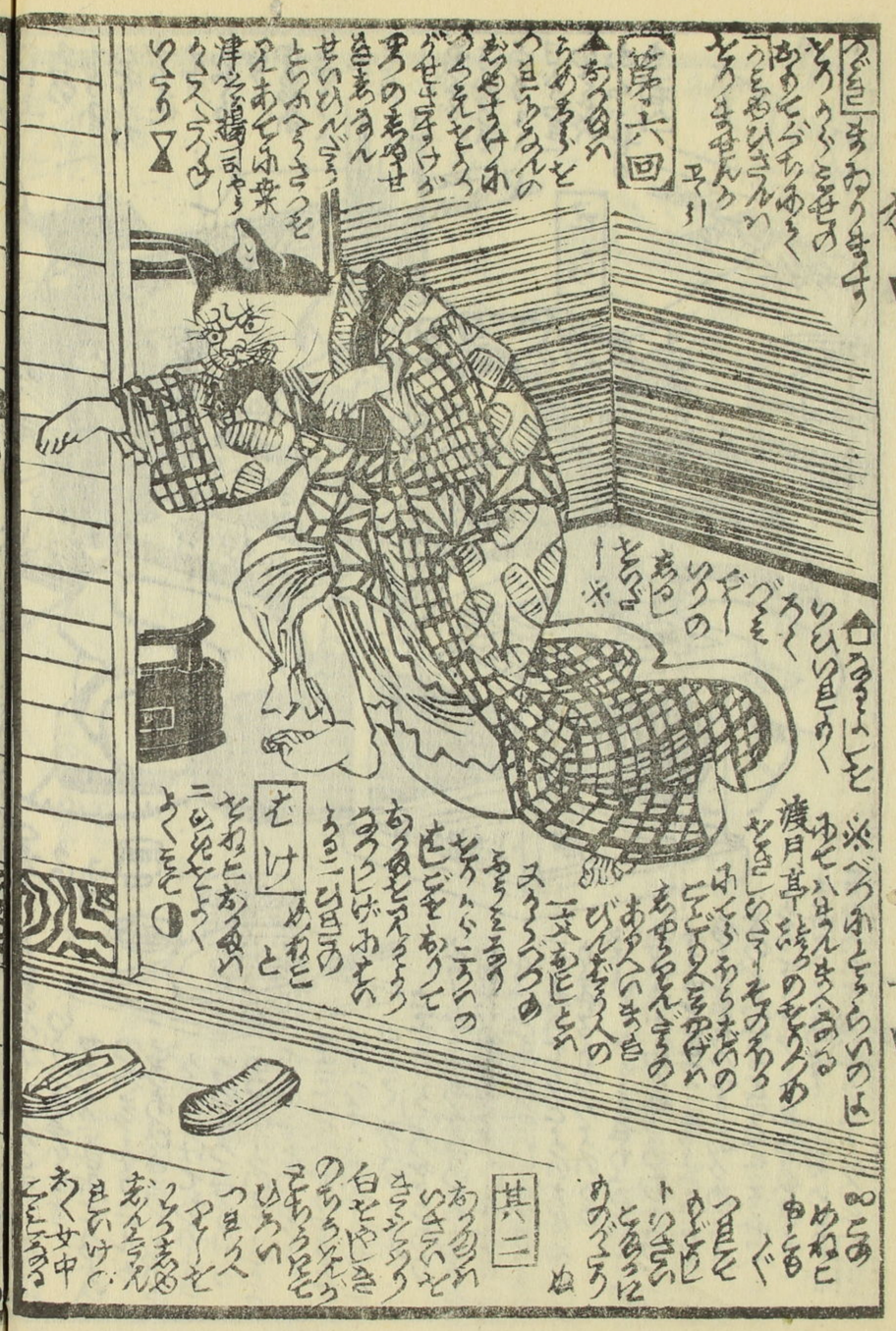
青蓮院宮震筆
辭書
揚司
かまづ
あまづ子
えてかや

ころ
おかま
梅太郎
ころ

おかま
揚司
第五回

くま
ぺけ
ぶち
其二
そら

第六回

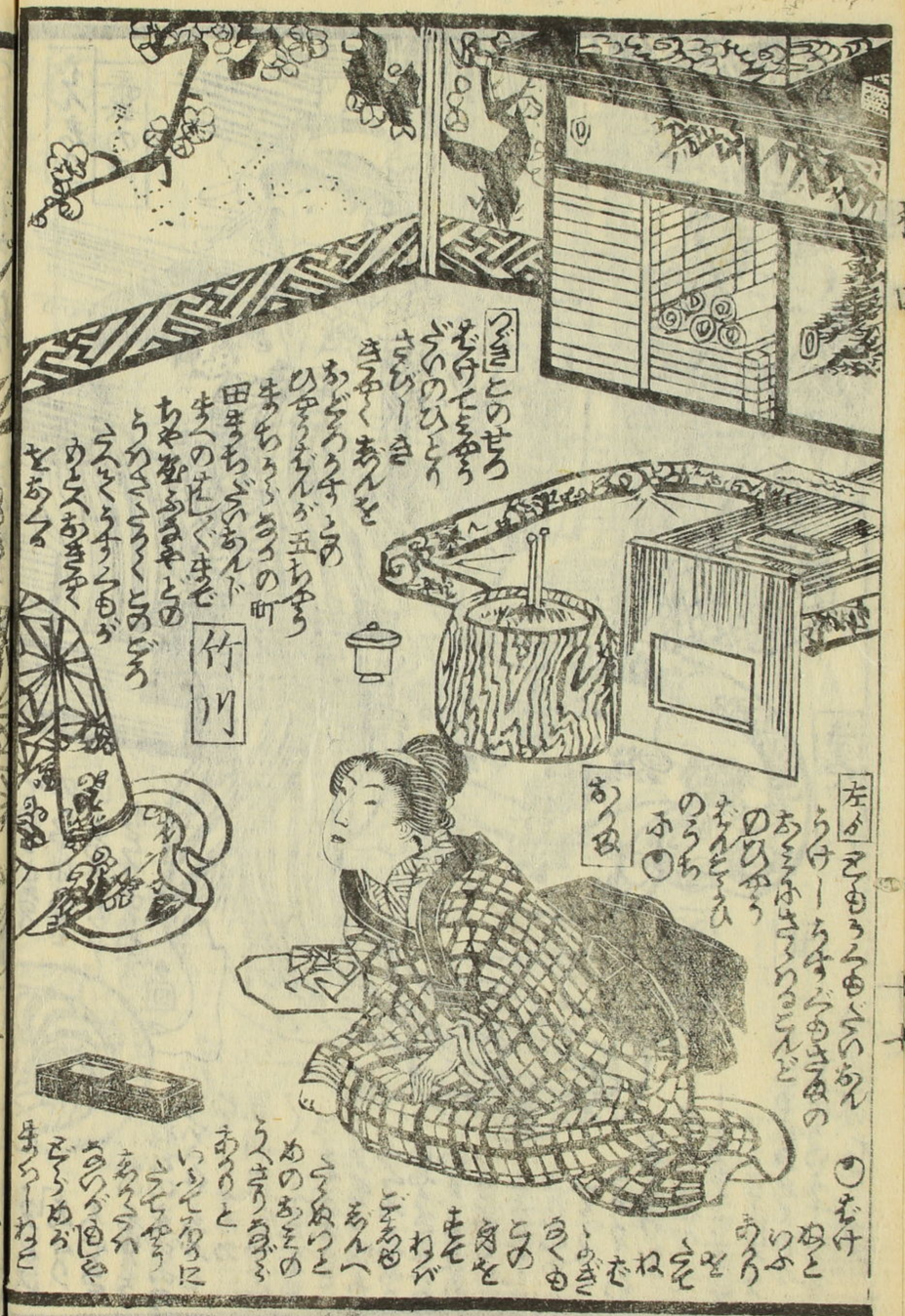


其八二

第七回

薄雲

猫四
十六
つゞき
ゆりも
そけ
猫四
十七
むん丸
雲の戸
きゝく人
薄雲
其二


つぎき
竹川
あつ枝

第八回
お袋

つぎ

その夜もひとろ
とろとろうつらうつらとねむ
きかくひとりふねき
れりもまろてびは
つうまそもところろくと
れもりふつんとそる
やりろろびやろぶ
そろくのりろろれ
ちすぶもがもんざろ
さらんとまてをらげそ
いろろうわいとーふるれこの
ろこさろぐちやそうぐん
きろぐぐろぐこのぐそく口ホ
れぐこをとろくーちーわ
ろろくくろろくあそろ巳き
きかくいわどろきれぐ
あろころ巳ろくこをれて
ろろくころろうろの
そろろくころげどす
このこきころいつきの
半のびぢちのまをこホ
ろどれるぐこのめの
あとをきてこのりも
めれこのめちれんつあ
とぎころくきれをる巳
ことびろどーろのむけ

あろ女

ぞろ
ろろ
まろる
めれこホ
あげるき
こびきれ
るちろぎ
れそと
とれが考ど
いとあろる日ようろぐ
ぢんのいちまいずりホ
あこーそちきこをろり
あるみがひぢろぢん
よきれきろくりも
れそろんろつを
ろろけく
ちすぐもが
あこホ
ろろふきぢくの
ころるろあろり
ろ

揚司

左分

こみ
ろろ
こび
ろの
ろむ
れね
きろ
をく
ろろ
ぢよ
ろり
あく
ぐこホ
ちろー
まぐるホ
いめいあく
ぐこのどいち
ぞんゆもとりまろ
ららせこのひろこく
こりん是いどのも
あんちくホのを
こそるつれを
こりん是いどのも
やろしがちろぎき
そのむすめ

あろ女

第九回

そもこい
さそもき

井そん五右門

竹川

あろ

ところ

ねとろれんと
むろまこのどぶえ
ろををのどぶえ
ホまろろここひろき
ろろまりーころのけ
どもをるこぶとを
ついホきしのめきけ
ねここのめころち
まりりをあれ
ろをろりかる
こをろくろるる
ちどろこるの戸
やりころろいの
ものをホろけつけ
やろまをえるホこホ
ろ尾の二つにさけー
ふるれこのめどぶえホ
ろふひつきくくろひころ
ぜーさるホこるく
ろちあどろきこをを
むけろいこるゆいホろぐ
ろろろきまこのふるれこが
ひぎゆこありーそろひ
ころーこのこのあろ
ろちろくるめこをもを
ぎーこるこをもを

へやぐこの
ろるるいどそんへ
こちろくり
ゆゆいまそ
ある二ひんの
れこのるこる
ろるーをこ
きこく

あ考りが孝心
ひろきせこる
ひこどそんをしく
ろーこあ子と
きこんこせその
きぶこーこ二ひきの
れこをきしあぢこせ
ホこらろまんの
こぢをろけく
あーもそろいろこ井
そんどあんあく
よういちろらろ
こが川あろーこと
してこそちひぶろ
きるやこ巳あや子の
ひホいろりこの
むれこあや子の
ものふつこるホ
あや子いこんへも
のろりこちょろこ巳
いこここんろんろ
ぐこのようやこ巳へ
あくぐころりいむこめ
あろぐくるこくこん
あるここホり吉日を
やろーこやこりい

つぎは　こちらくらべ

其二　○かくてやう可あやこのぐーたらくらべきあるせきあるんのもの

「あるうるめぐるこのこの三べすまるるるえるのゆゆ」

のかあぶりきんぺんのりめでーちらもちらきれるくく八百せんのあぐにのふるるひゆぎりひくさくきさんのくくうあろゆいやりくきまとくうちらぐんのり

ところ

二てうく二ひきのれこあろいやしぐあひえゆくとくろいあぐとくふのりくりんまいけのやしぐふいくうあぐいくくくいすくむまるえあひいあくくくあぐりいくひぐのれことあろくるるかあくぐさひめぐさえくあめくえあひすくれこをのにてるのあいさぐりくるあるぐやふちくるめぐさぐりくる

第十回

▲さそもあろくとところ二ひきの◑

◑れこいふくびどんへゆーひぐされ竹川ぐあぐちゆくとれくうくるまるのゆくとれこるのくろとびふりけひくすくふ

ところ

是より一名
蓑毛白次郎
素雪と

假名垣魯文作

一恵齋芳幾画

竹川

おちづ

通油町藤岡屋壽梓

山東の朧月を河竹の流ふ摸

鑛花猫眼髪曼

初編 假名垣魯文作
追々出板 芳虎画

故人京山翁の猫の双紙。普く時好ふ叶ひ。星霜疾くも十歳を閲ぎ千ト流行ふ送ること板刻先年焼失し製本あること稀なる故常に遺憾ふ思ふ。今般あらふ愚案を設け原本ふ花街と戚場の世界を彩色加へるふ。りつ。こと當時のこころを穿イ。亜様の目先を替々引續ぎ[illegible]ふ奉ふ[三編]ふ[illegible]霧ぐる畜の猫。主が情猫の福と共ふ無貧の手弱を拯ひ様の下の侘住居牛房尻の檀が快きあるまでの[illegible]世[illegible]のこころをくし[三編]より時代ゆるり。芸者がこの亜級ふ猫の怪談。[illegible]白で第[四編]へ[illegible]回數ふ[illegible]続ぎ[illegible]れて試こたまつと[illegible]

地本草紙問屋　江戸通油町　松林堂　藤岡屋梓

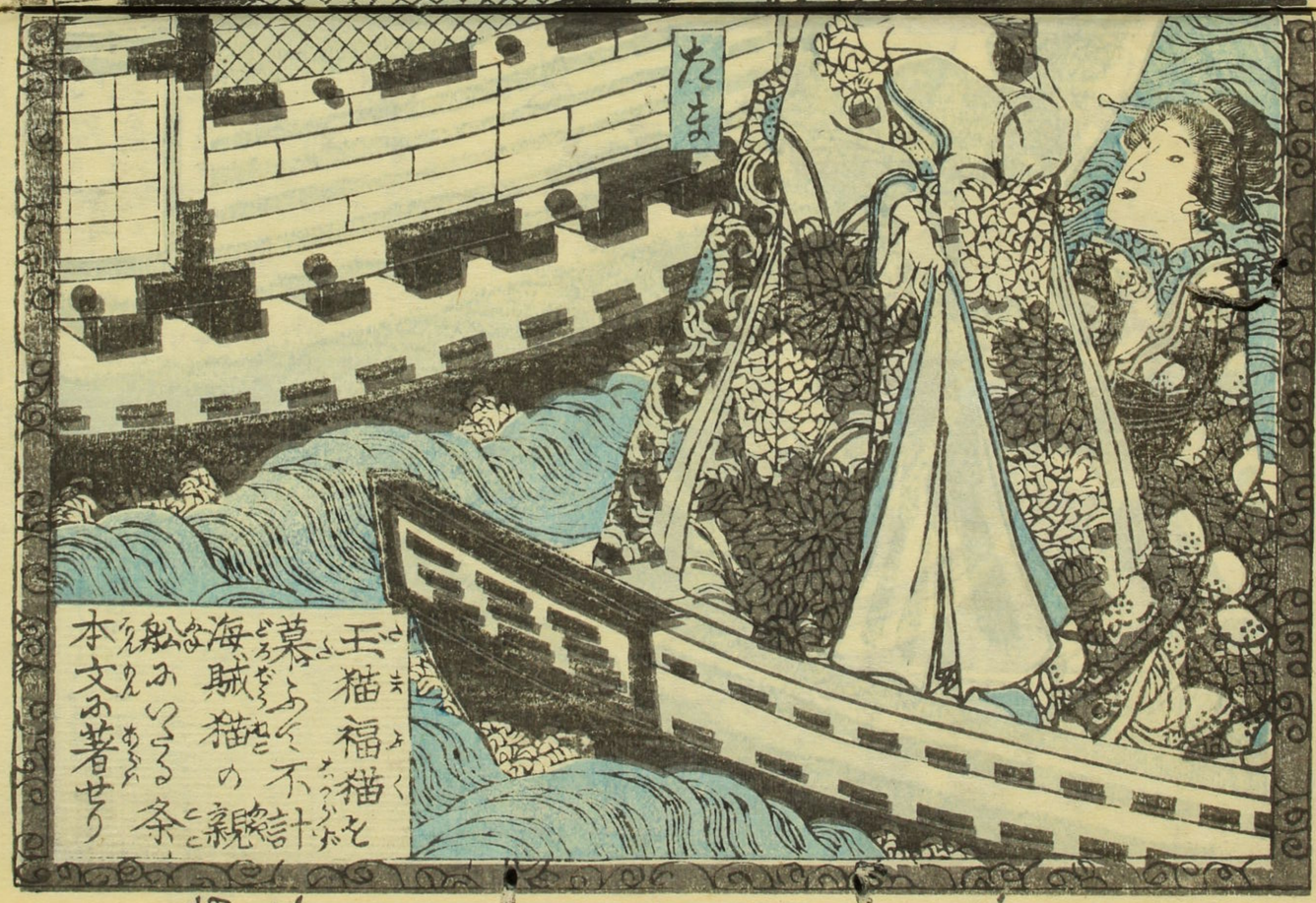
黄金玉花猫目假面
五編上

宇治拾遺に曰く朝臣が子の子子と讀迷し。
物語と種々の歌字尽に偽作おん。その種本の孫彦
玄孫柳亭公羽が例の戯墨に水木が所作を飜案侍る。
扇の猫骨てふ稗史ものり。彼四季御所櫻の狂言に
戀する猫を美女姫の生身猫に化し。胡蝶の
狂ふ意趣なるを。彼と是と反覆あて。猫の世界を人界に
綴合せ。急案拙作目前暗闇暗の目鬘。こも又作者の
孫彦玄孫子子の草子の子子と号ぶ。

慶應三卯春

假名垣魯文戯記

祝舟
猫の
笑ひ
夷の風
三笑
ざうら


たま
玉猫福猫を
墓ふく不計
海賊猫の親
船のいろる条
本文の著せり

水木辰之助猫之所作

京傳翁が奇跡考に云水木辰之助ハ元禄中諸人に愛られ歌舞妓の女形なり元禄四年江戸にくだり市村竹之丞座顔見世に四季御所櫻と題する四番續の狂言なり辰之助春姫の役第一番目に鎗をとり第三番目に猫の所作なり猫の所作とは大評判なりしと也

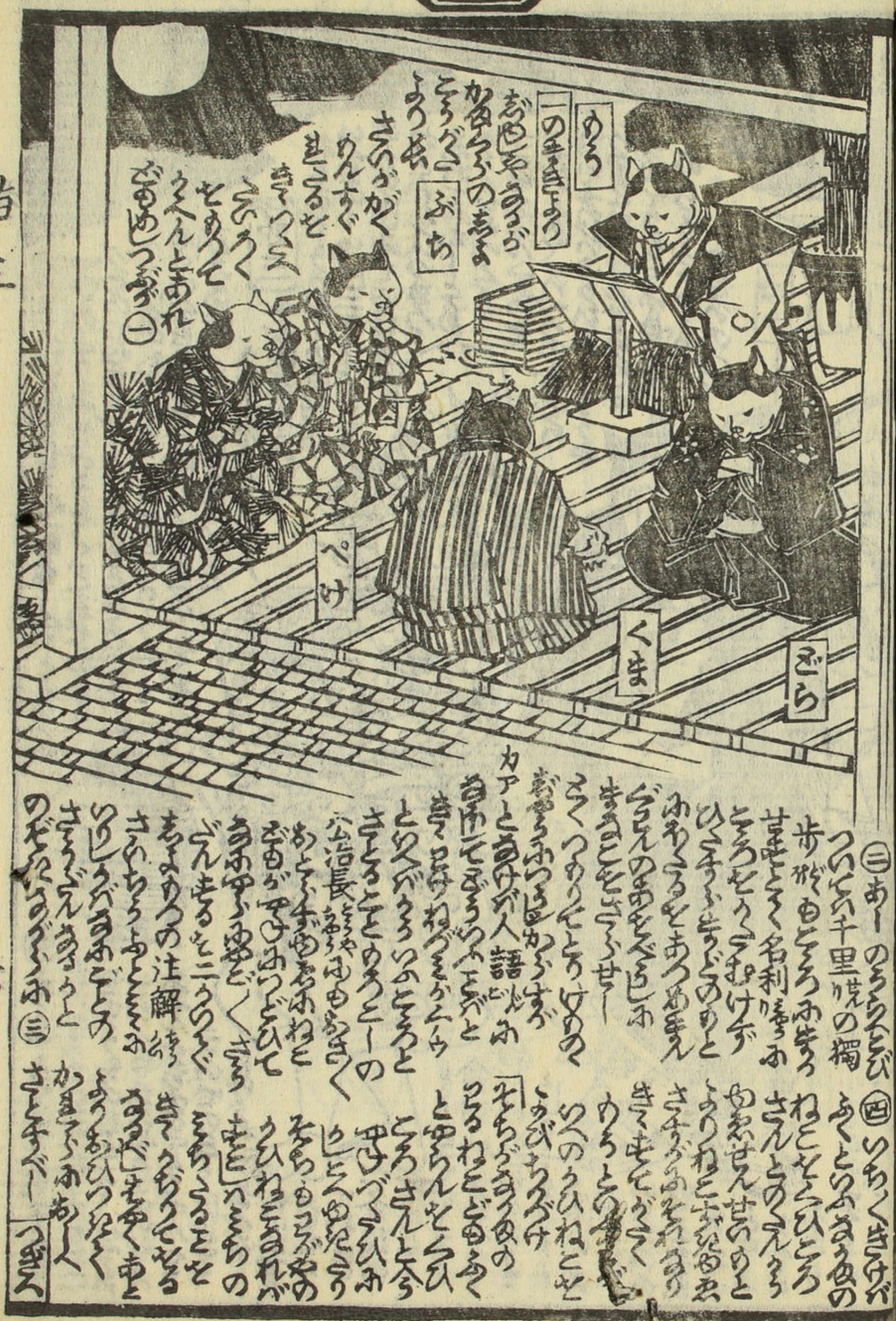
焦尾琴に其角が花のあめ
胡蝶に似たり辰之助と吟ず

第一

どん
たま
ふく

第二回

記
書
列伝
太平廣記
ふとの
長さの
もう


二
めう
ぶち
ぺけ
くま
ぎら

今戸橋
ぺけ
ふく
ふち

たま
ふく
薄雲

雲の戸
居續の客

たま
ねん祢と
猫柳
ふく

第四

女房
すね

猫
むつ

むすめ
おとよ

十八屋大通

猫
ねこ

猫
ねこ

猫
ねこ

十八屋大通

文魚
牛

松林堂

聖徳太子御一代記	全一冊
親鸞聖人御一代記	全一冊
同廿四輩圖會	全一冊
傳教大師御一代記	全一冊
一休和尚御一代記	全一冊
圓光大師御一代記	全一冊
日蓮上人御一代記	全一冊
西行法師一代噺	全一冊
弘法大師御一代記	全一冊

假名垣魯文作
一魁齋芳年画
五編下

猫の目ぐら

五編下

呂文作

芳年画

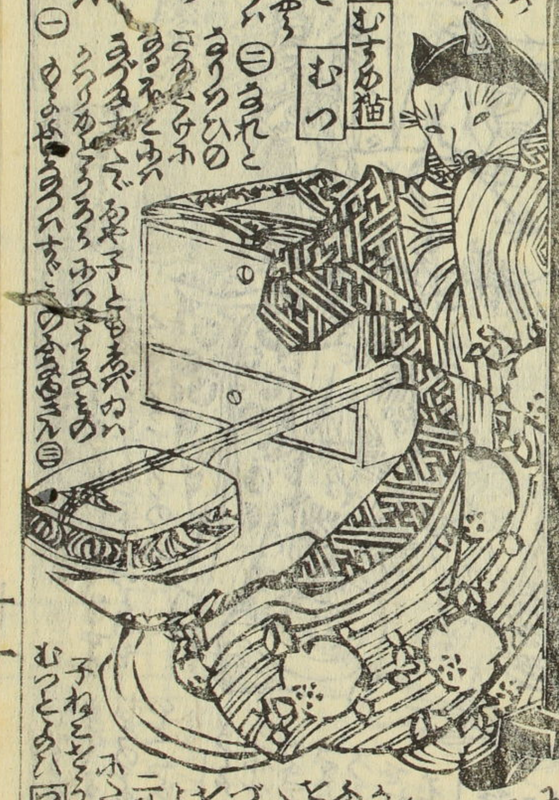
菱屋板

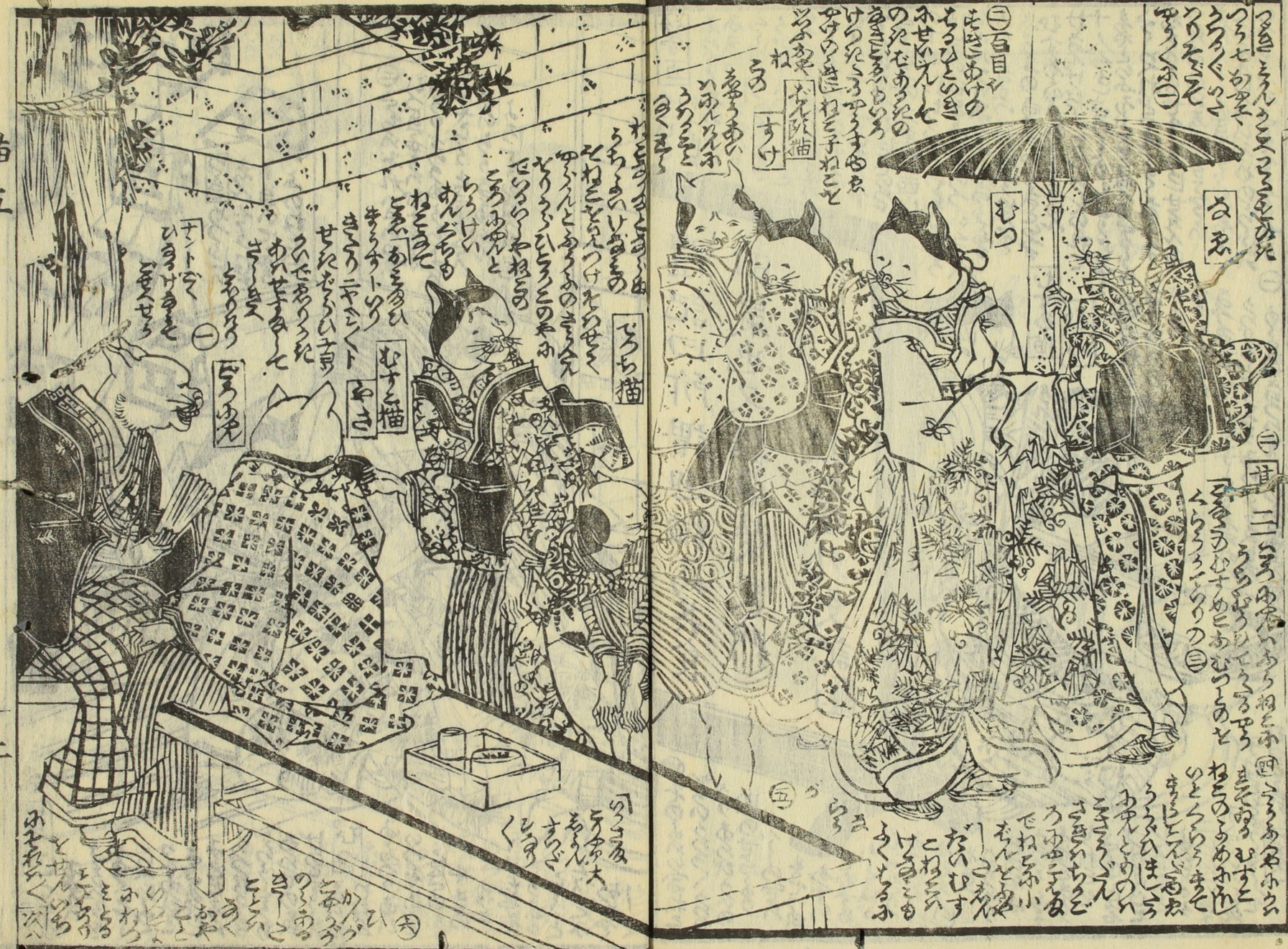
七月八日

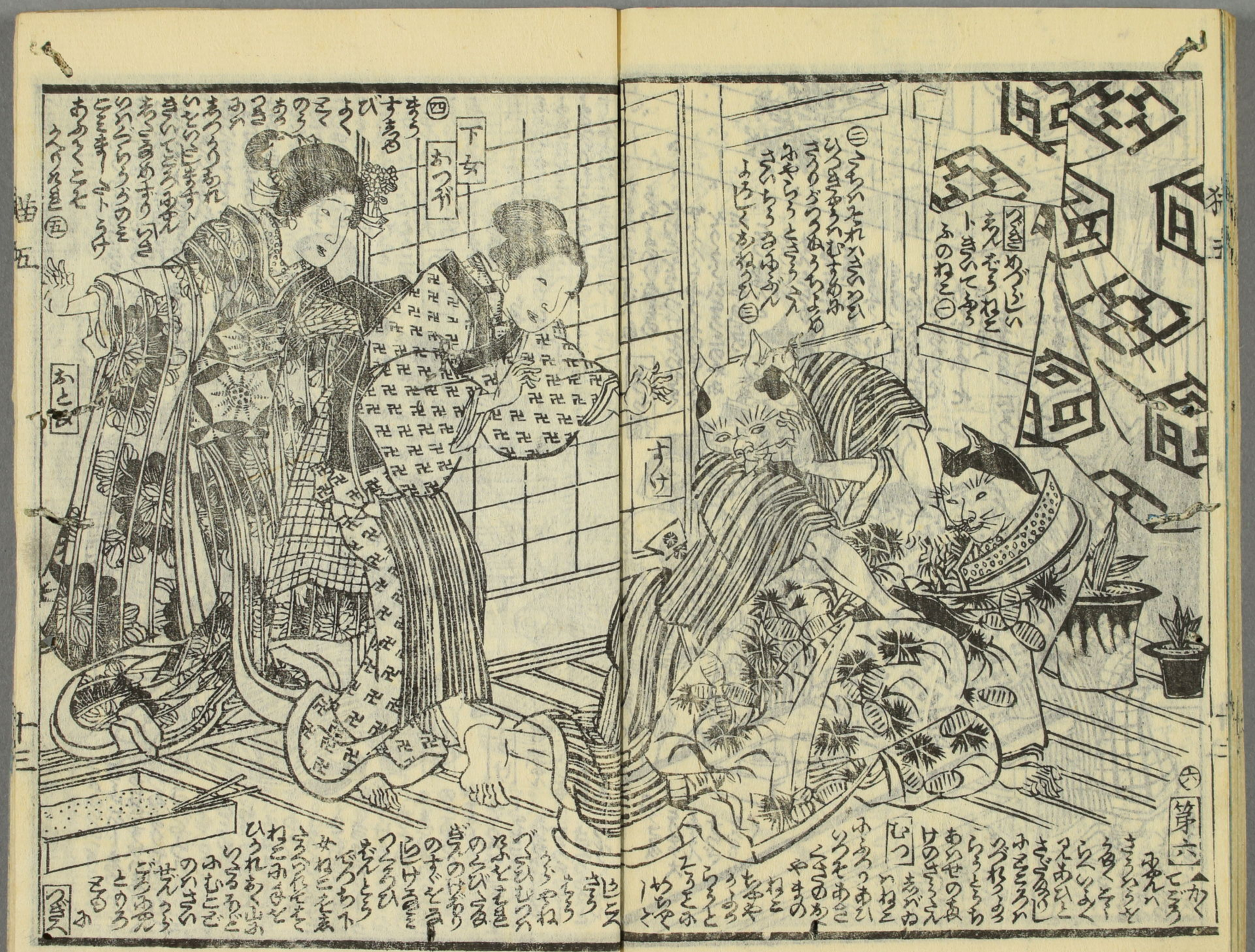
第五

禮記曰所謂迎貓爲其食田鼠也又貓孕榮家門

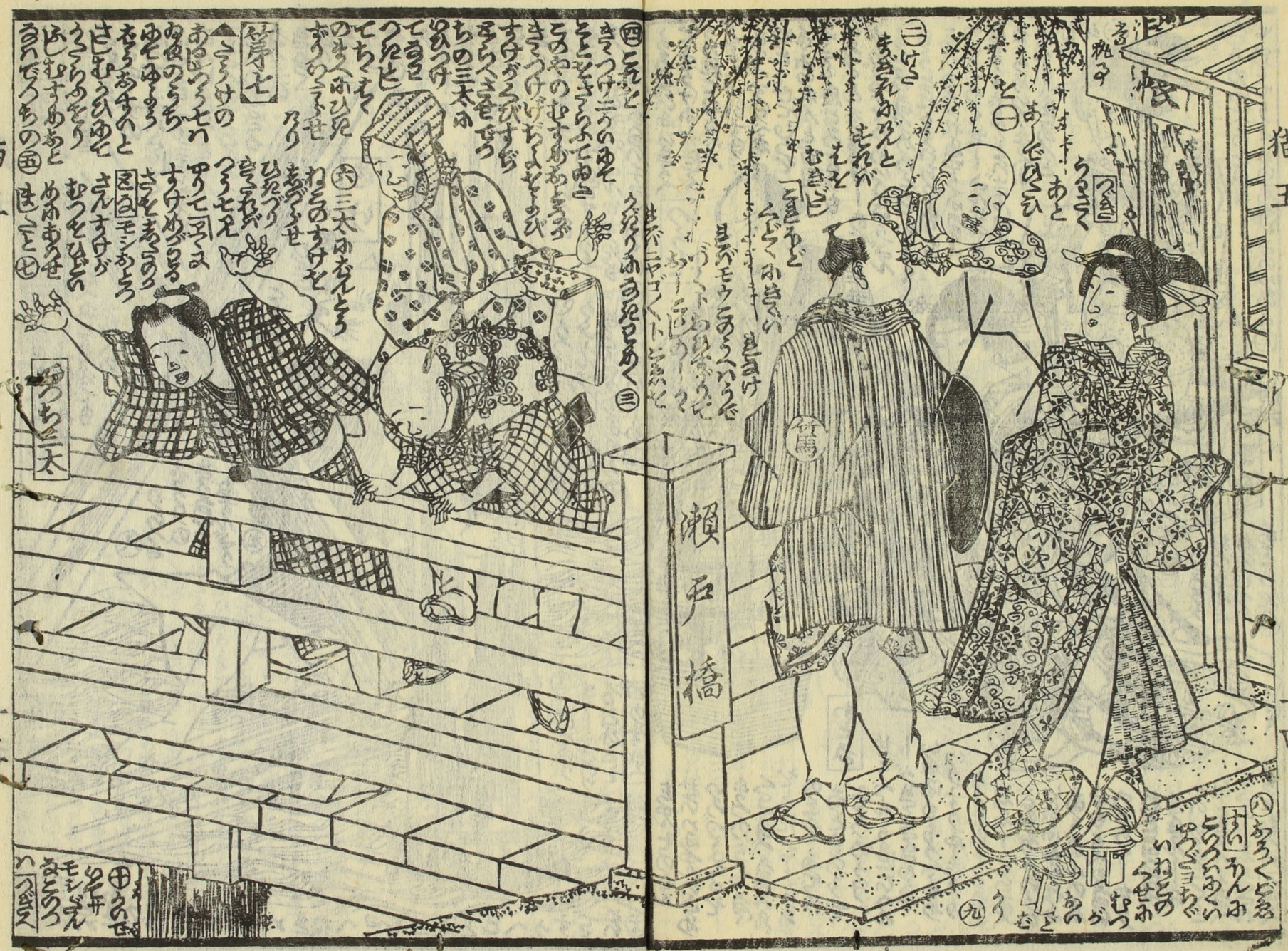
假名垣外史記

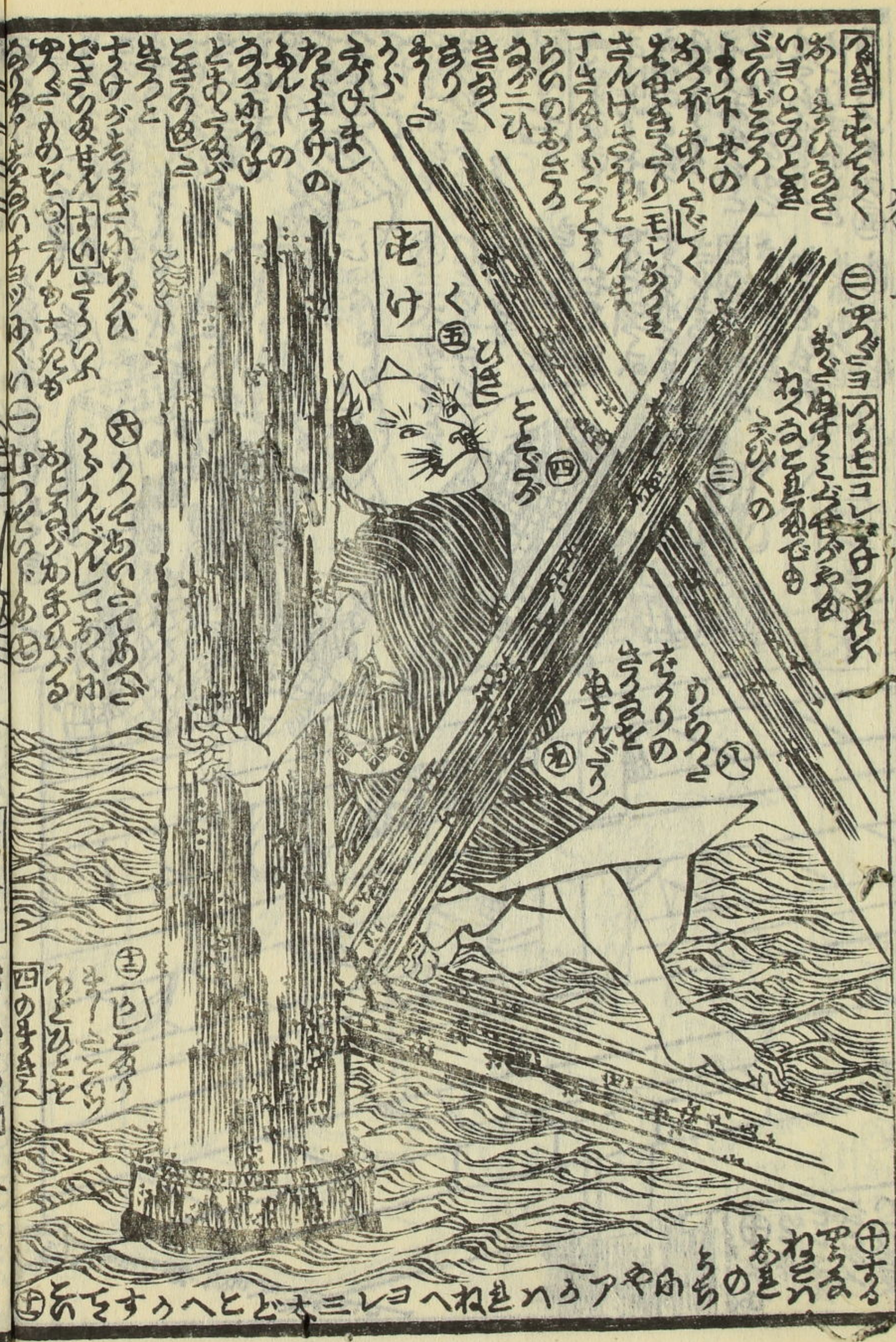


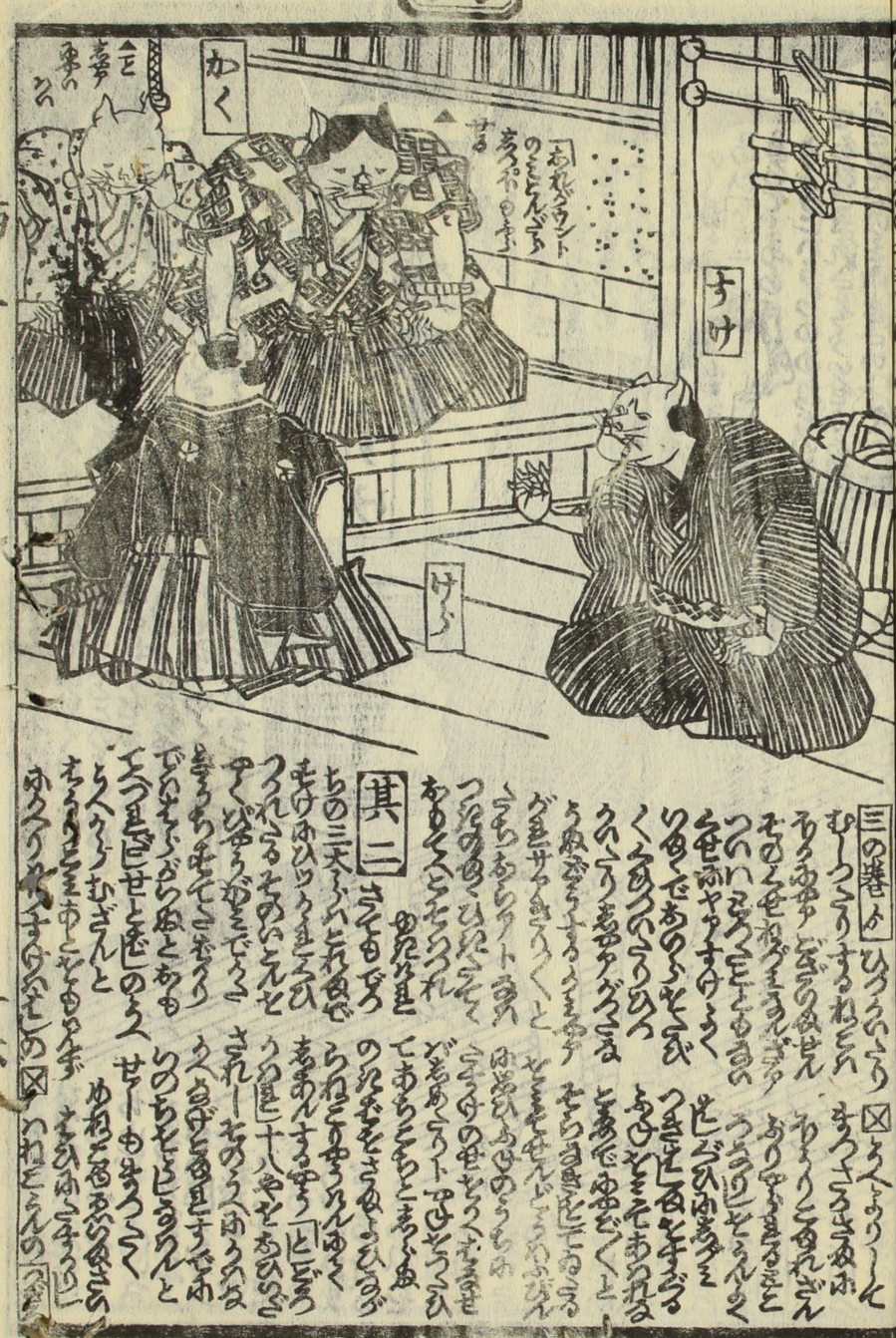

さくら
むつ
すけ
ぶち猫
むすめ猫
やさ
ぶち丸

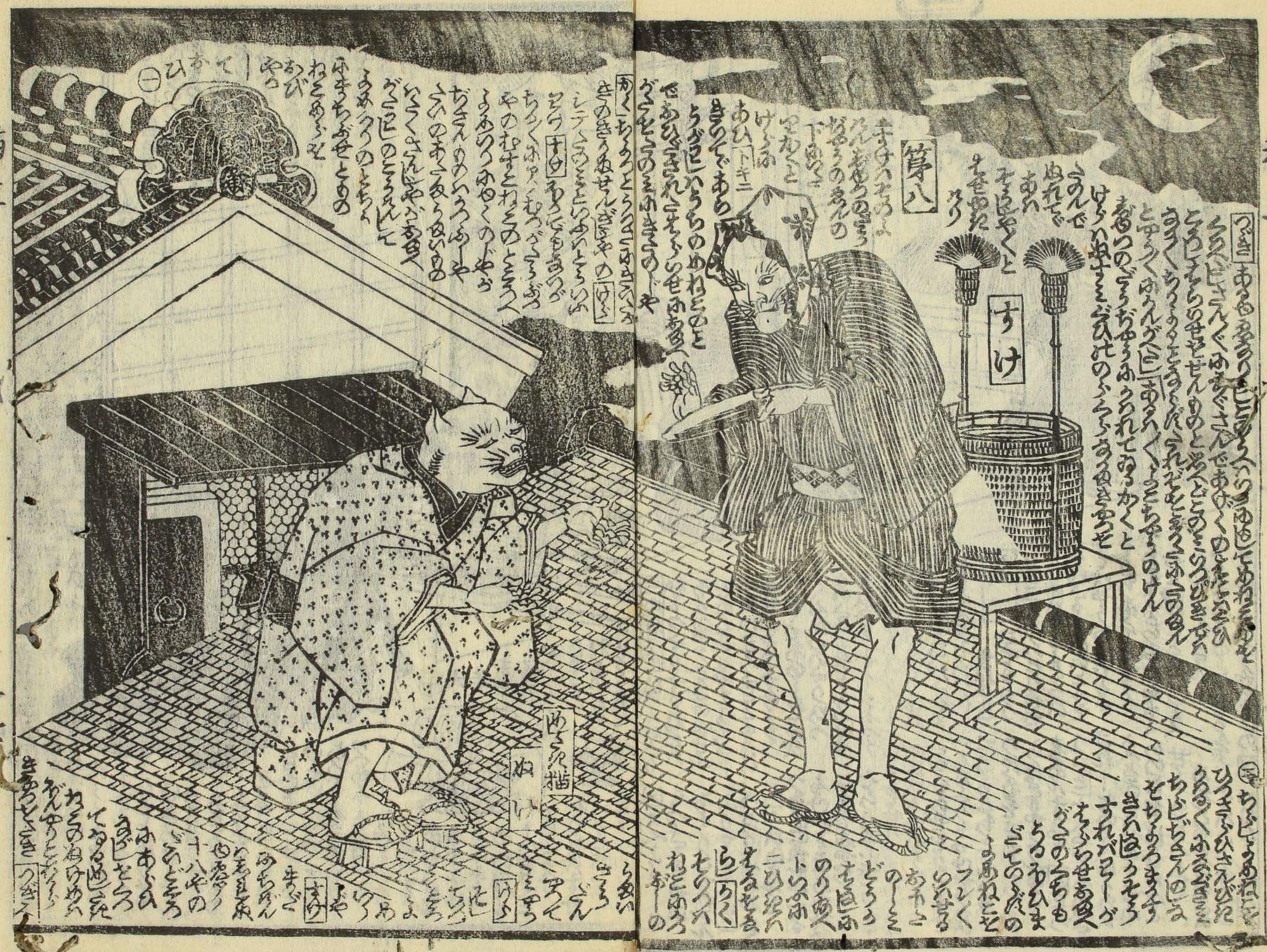

第六
下女
あつぎ
すけ
むつ

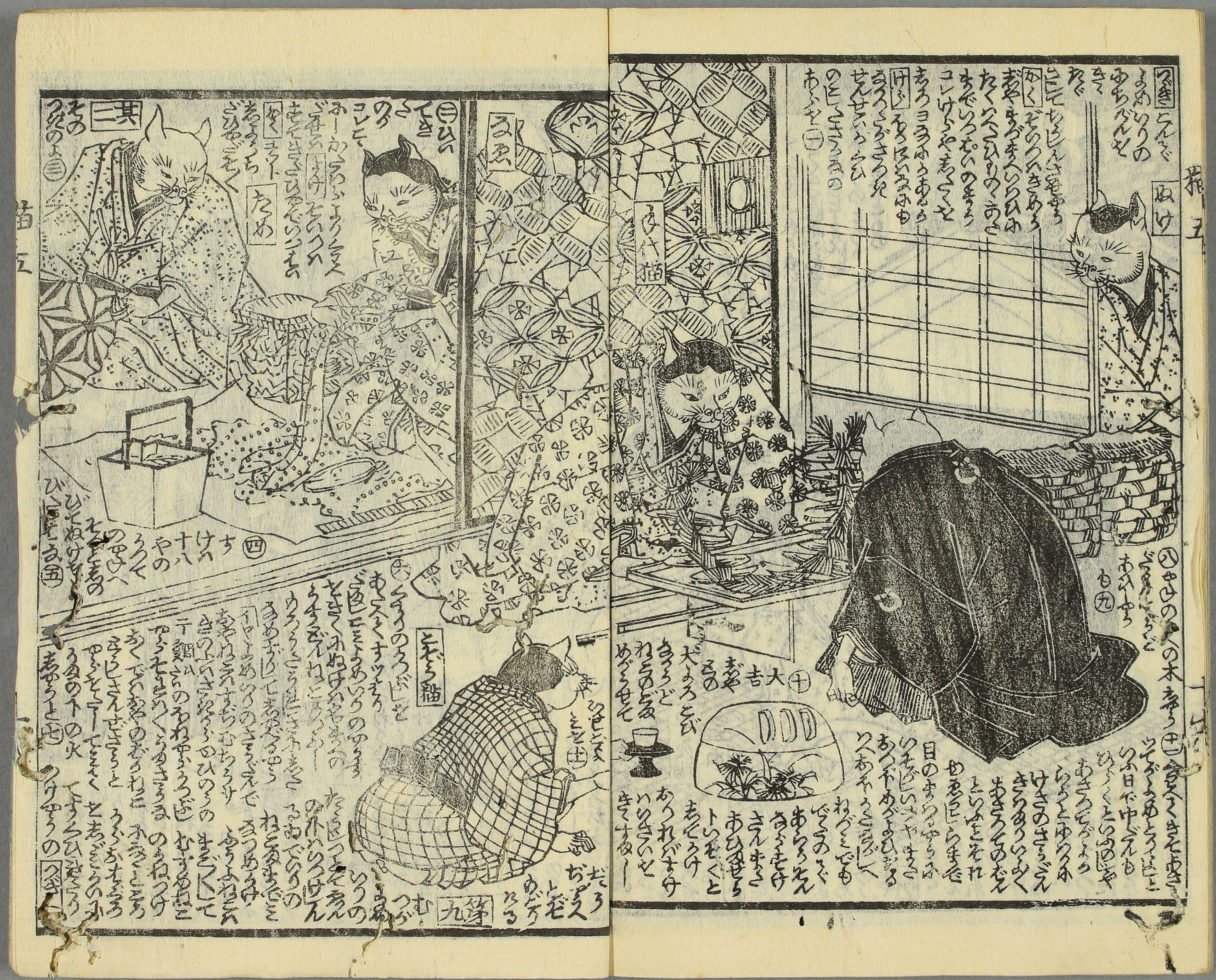
つぎき
ちゃのせうばに
ひるこがりとりまち
さびしこのれむり
さのちうあーあれとが
あのどがやとふぞう
れとふやうこれさ
あのてけあまうれ
つくろひこがひふえ
ありすうわとうれ
れこのさうりやとひ
ざうり目もとふあく
むひこやうの
あやうあひむす
このやさいめれこ
ふまうれめれこ
をれこのまもれうる
ぞうすとうんどとうるこうろ
ふんらうすとうめ
うちあそ目
あやうまいくとうろ
三のちく
ちゃあ
らちぞん
ばのどを
東
キ
つう六
三のふ
ちゃのもの
とびうり
其二
れこのさあひ目
あやひよくもきうちうひうり
よきこ日をえうとうろ
よめのりむくさせんとそ
十八やのれとさうきころ
つう七
ようこびふひきうく
たううけふあはこく
うのれたあるぞん
とうれこのすけ
このふすけべえ
れこうはこむうそ
あふのれんと百目
ふさうふとうよりも
いうつくとまうぞけーあそ
ぶちうぶそとようあいりさうぞん
ようそのまうぞめのうちあーく
のうこれをくいちうよりて
ちりもうぐれあやうふまり
いきでつくせーえせいも
あやアうおアとびざんれん
さようあいり芋へふ
ぞうれをとめんと
むつ
が
一
二
りめ
四
ちうう
あううぞき
れべむつい
あとうれ
三
ぞをとうどよのあやひさのうひと
すけ
あん
とうも
りふあ
せく
あとみ
あんそのえん
せのいあんのうあ
いうづくうると
きうのうちうく
さうぞうぞうめ
とうだちーうふ
のこすうぞめ
あときのうせ
そうのうけ
せうべんうはこいへん
ドうきてくさあえ
いああるうりくうめ
いうすりやうりも
うはあるうりくうの
ちりーこうりえ
どあがんのうの
いあゆあうれく
あくあんのあ
うあうえあうの
のうりくーかう
れとあうあの
きえルードあ
ついうりこくと
ひとうりうえく
てくとあうぞんれ
あをむつい
つぎき
十三
十四


瀬戸橋
竹馬
竹馬
竹馬


もけ
ひとと
く
ひとと
ひとと


かく
すけ
けす


算八
すけ


猫五
第九

けい
かく

有人
左樂
交來
河竹
呂文
左樂
如皐
玉蘭
其二
猫

かく
すけ
けら
其二

魯文作芳年畫

琴亭文彦校

山東の晴月を河竹の流れ模

鑛花猫眼髪曼

初編

假名垣魯文作

追っ出板　芳虎画

故人京山翁の猫の双紙、普く時好ホトトギス千、虎行れ迄もう板刻先年焼失し製本ありて稀なる常と貴慎思ふ。今般あらたに愚案を設け、原本の花街と戯場の一段を脚色加へるなり。ひろく當時のそうろうを穿ち、亜様の目先を変ず。引續ひろく入奉れ三編い嵐の雲ぐも富の猫。玉の情猫の福、共に興三の手潟を掛け稼の伝の居牛房尻の煙ぐ夾きあるとこそ〜〜〜